

科目名	メディア・ジャーナリズム実践 演習Ⅲ（応用編）	担当教員	佐々木 伸
科目属性	専門科目群 E群	単位数	2単位（面接0.5単位）
<p>【授業概要】</p> <p>ジャーナリズム・メディアの実践を学ぶ。ジャーナリズムの基本を学習したのを踏まえ、本講では、実際の取材・調査・インタビュー、執筆などを通し、「真実、独立・公正」という3原則を順守しながら報道活動を体験、ニュースができるまでの過程を探求する。ストレートニュースだけでなく、解説、サイド、企画、コラム、社説などの書き方を学び、実名・匿名報道、誤報とねつ造、メディアスクラム、人権などメディアの抱える問題を深く掘り下げて考察する。</p> <p>とりわけインターネットやSNS時代のジャーナリズム活動の難しさを把握し、フェイクニュースが生まれる背景を探り、フェイクを見極める方法を身に着ける。</p> <p>また誰もがニュースを送受信できるという意味が、それまで伝統的なメディアに委ねられていたニュースの製造、配信がもはや彼らの特権ではなくなったことを理解し、不確実な情報が氾濫する社会での共生の在り方を考える。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、実際の取材・執筆を実践してニュースのできるまでを体験、ジャーナリズム・メディアの果たすべき役割と責任、その可能性を探求する。 2、政治、事件・事故、経済、国際、スポーツなど具体的な専門分野の取材・執筆方法、文章論を学び、「設計図技法」の習得を目指す。 3、なまニュース以外の解説、サイド、コラム、社説、企画などの執筆方法と日常的な勉強の重要性を理解する。 4、インターネット時代のジャーナリズム・メディアの背景と問題点を考察し、フェイクニュースの見分け方などを身に着ける。 5、ジャーナリストには高い倫理観とプロ意識が求められていることを理解する。 <p>【授業計画】</p> <p>授業計画としては以下の15回におよぶ内容となるが、教科書「実践ジャーナリズム養成講座」「ジャーナリズムの役割特論」（ダウンロード教材）に基づいて学習、スクーリングで実践演習を繰り返し、突っ込んだ討議を行う。その後、2週間以内にレポート（2000字～4000字程度）を提出してもらい、その評価を踏まえて、最後に科目習得試験を受けてもらう。</p> <p>その上で、下記のような割合で総合評価を下すという形にする（2単位）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、文章論—いい記事を書くために 2、「設計図技法」の実践 3、コラムの書き方 4、社説の書き方 			

- 5、解説、サイドの書き方
- 6、情報の要約
- 7、他己紹介
- 8、テキスト批評という手法
- 9、レポート・論文の書き方
- 10、デスクの役割と責任
- 11、実名報道と匿名報道の研究
- 12、N I Eの実践
- 13、人権とメディアスクラム
- 14、日米報道ギャップ
- 15、記者の倫理

【評価方法】

評価は、スクーリング評価（25%）、レポート評価（25%）、「科目修得試験」（50%）の割合で行います。

【教科書】

「ジャーナリズムの役割特論」（佐々木伸 ダウンロード教材）

「ジャーナリズムの倫理と規範」（新聞通信調査会）

【参考図書】

「実践ジャーナリズム養成講座」（花田達朗編著、平凡社）

「メディアと政治」（芹川洋一、蒲島郁夫 有斐閣）

「ネットメディア覇権戦争」（藤代裕之 光文社新書）

「ポスト真実の時代」（津田大介、日比嘉高 祥伝社）

「ポピュリズムとは何か」（水島治郎 中公新書）